

## 自己評価報告書

平成23年 4月 18日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2008～2011

課題番号：20401030

研究課題名(和文) 紀元前7千年紀におけるメソポタミア新石器社会の再編と古環境

研究課題名(英文) Social transformation of the 7th millennium Neolithic communities in Mesopotamia and its relationship with the climatic changes

研究代表者 西秋 良宏 (70256197)  
東京大学・総合研究博物館・教授  
研究者番号：70256197

研究分野：先史考古学

科研費の分科・細目：史学 考古学

キーワード：新石器時代 メソポタミア 農耕牧畜 石器製作 古環境 集落構造 8.2ka イベント

## 1. 研究計画の概要

西アジアの一角、メソポタミアは世界で初めて文明社会が出現した土地である。そうした社会がいつに生まれたのかを明らかにするには、その基盤となった農耕牧畜社会の発展と変容の経緯を探ることが欠かせない。本研究では、初期農耕牧畜社会が大きく変質する土器新石器時代後期の社会変化の実態、メカニズムを野外調査を通じて解明する。特に焦点をあてるのは、紀元前7千年紀における社会変化である。すなわち、農耕牧畜開始当初は比較的均質な社会が展開したものの、その頃、地方文化が勃興し、その後の各地を特徴づけるような文化伝統、社会が形成され始める。この現象がなぜ、どのように生じたのかを気候変化との関連性をシリアにおける野外調査によって調べる。

具体的には、シリア東北部、ハブール平原において、(1)テル・セクル・アル・アヘイマル遺跡の考古学的発掘、および(2)ハブール川一帯の地理学的調査、(3)古環境分析を実施する。そして、(4)その成果を国内研究で統合し、謎とされてきた前7千年紀の文化変化の理由を具体的に説明する。

## 2. 研究の進捗状況

## (1)考古学調査

現地調査は毎年実施することができた。テル・セクル・アル・アヘイマルは紀元前8千年紀の先土器新石器時代から7千年紀の土器新石器時代まで連続と居住された遺跡である。調査にあたっては各時期の社会の特質を定義しようとする考古学的証拠、すなわち、集落規模や構造、遺物の空間配置にかかわる知見を収集、分析した。

## (2)地理学的、堆積学的調査

この遺跡はユーフラテス川最大の支流であるハブール川に接した段丘上にあり、河川氾濫の痕跡が遺跡堆積物に残されている。そこで古地理学的調査により段丘の形成過程を調べた。また、テル・セクル・アル・アヘイマル遺跡の発掘によって紀元前7千年紀の井戸が見つかった。これは西アジア最古級の井戸である。当時の水位を調べるための地形解析をおこなった。

## (3)古環境調査

遺跡近隣の湖におけるボーリング調査で入手した堆積物を検査し、珪素化石解析による古環境分析を実施した。また、上述の井戸の水質、古環境分析に資するべく、その堆積物を層位的に採取した。

## (4)国内研究

以上の野外調査で得られた試料、データの解析をすすめた。それには系統的な放射性炭素年代測定による編年付け、社会変化の解析、遺跡堆積物と古地理・古環境調査堆積物との精密な対比などが含まれる。

## 3. 現在までの達成度

当初の計画以上に進展している。第一に大規模な放射性炭素年代測定により、紀元前7千年紀半ばから末にかけてテル・セクル・アル・アヘイマルの集落が縮小、やがて放棄されたことが確定できたことによる。イラクでの研究進展が全くない現在、これは重要な前進である。第二に、メソポタミア地域だけでなく、周辺地域からの比較資料が得られたことも大きな進展をもたらした。例えば、1960年代に収集された紀元前7千年紀の東京大学所蔵イラン考古学標本の再解析が進み、ちょ

うど北メソポタミアで集落再編が起こった時期に、イラン高原でも顕著な社会、生業変化があったことが裏付けられた。

#### 4. 今後の研究の推進方策

平成 23 年度は最終年度である。現地における補足調査、ならびに国内分析成果のとりまとめを計画している。補足調査の主たる目的は、紀元前 7 千年紀後半の集落様態の再確認である。集落が縮小することが判明したものの、それが急激な縮小であるのか漸進的な縮小であるのかを確認する必要がある。一方、国内分析は既に入手した考古学的証拠と古環境データとの照合である。他地域における同時期の諸現象についても理解が深まったため、それらとも突き合わせながらメソポタミアにおける社会変化のモデル構築をめざしたい。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 20 件)

- (1)Nishiaki, Y. “Excavations at Tell Seker al-Aheimar, Hassake, Tenth season, 2009”. *Chronique Archeologique en Syrie* 5, 2010 (in press).
- (2)Nishiaki, Y. “A radiocarbon chronology of the Neolithic settlement of Tall-i Mushki, Marv Dasht plain, Fars, Iran.” *Iran XLVIII*: 1-10, 2010, 査読有
- (3)Nishiaki, Y. “Excavations at Tell Seker al-Aheimar, Hassake: The 2008 season.” *Chronique Archeologique en Syrie* 4: 67-74, 2009.
- (4)Nishiaki, Y. “Excavations at Tell Seker al-Aheimar, Hassake: The 2007 season.” *Chronique Archeologique en Syrie* 3: 53-61, 2008.
- (5)Nishiaki, Y. “Further remarks on obsidian corner-thinned blades from the Northeast Syrian Neolithic”. *Neo-Lithics* 2/08: 23-25, 2008.

[学会発表] (計 28 件)

- (1)Kadowaki, S. and Y. Nishiaki “Consumption and discard of obsidian chipped-stones at Neolithic settlements of Seker al-Aheimar, Northeastern Syria”. *The Seventh International Congress on the Archaeology of the Ancient Near East*, London University, April 12-17, 2010.
- (2)Gourichon, L., Y. Nishiaki and S. Kume “Curious animal toothed gypsum-made objects found at Tell Seker al Aheimar (Pottery Neolithic, North-eastern Syria).” The 11th International Conference of

Archaeozoology, Museum National d’Histoire Naturelle, Paris, August 23-28, 2010.

- (3)Nishiaki, Y. and M. Le Miere “The oldest Neolithic pottery from Tell Seker al-Aheimar, Northeast Syria: The archaeological contexts and technological developments”. International Symposium on *The Emergence of Pottery in West: The Search for the Origin of Pyrotechnology*. University of Tsukuba, Tsukuba, October 28-29, 2009.
- (4)Nishiaki, Y. and S. Kadowaki “The PPNB water well at Tell Seker al-Aheimar, Northeast Syria”. International Symposium on *The Late Neolithic of Upper Mesopotamia*. The National Museum of Antiquities, Leiden, March 26-28, 2009.
- (5)Nishiaki, Y. “Discovery of a large Neolithic female figurine from Tell Seker al-Aheimar, Northeast Syria”. *The Sixth International Congress on the Archaeology of the Ancient Near East*, Rome University, May 5-10, 2008.

[図書] (計 16 件)

- (1)Portillo, M., R.M. Albert, S. Kadowaki and Y. Nishiaki “Domestic activities at Early Neolithic Tell Seker al-Aheimar (Upper Khabur, Northeastern Syria) through phytoliths and spherulites studies.” In: *People and Plants: Landscape Exploitation and Vegetal Resources Management from Prehistoric Times to Present*, edited by C. Delhon, I. Théry-Parisot and S. Thiébaud, pp. 19-30. Antebes: Editions APDICA.
- (2)西秋良宏・木内智康 (編)『農耕と都市の発生 —西アジア考古学最前線』同成社、2009 年。
- (3)西秋良宏 (編)『遺丘と女神-メソポタミア原始農村の黎明』東京大学出版会、2008 年。
- (4)Nishiaki, Y. *Naissance des Divinités: Figurine feminine “exceptionnelle” du néolithique*. Damascus: Ministère de la Culture, Direction Générale des Antiquités et des Musées, 2008.
- (5)Nishiaki, Y. and M. Le Mière. “Stratigraphic contexts of the early Pottery Neolithic at Tell Seker al-Aheimar, the Upper Khabur, Northeast Syria”. *Proceedings of the 4th International Congress of the Archaeology of the Ancient Near East, Vol. 2*, edited by H. Kuehne, R. M. Czichon and F. J. Kreppner, pp. 377-386. Wiesbaden: Harrassowitz Verlag, 2008..

